

歯科衛生士における大規模災害時の歯科保健医療に対する備えに関する研究

研究代表者 中久木康一（東京医科歯科大学顎顔面外科学分野 助教）

研究分担者 小室貴子（荒川区保健所健康推進課 歯科担当）

研究要旨

健康危機発生時における地域包括的歯科保健体制の構築に向けて、歯科衛生士の役割を明らかにすることを目的とし、各地で災害時に活動した経験のある歯科衛生士や、災害時の歯科衛生士による歯科保健医療活動に関係する歯科衛生士らを集めた交流会を開催し、意見交換を行った。

また、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震後に中長期的な健康サポート事業の中で行われている口腔ケア活動を視察し、意見交換を行った。

これらを通じて、大規模災害時の歯科保健医療活動における歯科衛生士の役割を抽出した。

はじめに

大規模災害時には多くの地域住民が避難生活を送ることが想定され、長期化にあたっては、口腔内状況の悪化、義歯の紛失や不適といったことからの食生活、生活の質の低下が考えられる。そこで、医療情報の提供による早期改善と口腔衛生指導による機能の維持向上、また疾病予防等を、歯科保健医療従事者である歯科衛生士が担い、地域住民の健康被害を最小限に抑える体制がとられているが、いまだ体系的に組み立てられたとまでは言えない。

A. 研究目的

健康危機発生時における地域包括的歯科保健医療体制の構築に向けて、歯科衛生士における体制の整備状況の実態調査に向けて役割の検討をした。

B. 研究方法

1. 平成21年9月20日（日）に、災害発生時の歯科衛生士の歯科保健活動などに関する情報交換を目的とした“災害時の歯科保健にかかわる歯科衛生士の交流会”を開催し、情報・意見交換を行い、今後の協力や連携に結びつけるものとした。出席者は以下のとおりである。

歯科衛生士（順不同）：

- ・小室貴子（荒川区保健所健康推進課、研究分担者）
- ・藤原愛子（静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科教授、文部科研「地震災害被災者のQOL向上を目的とする歯科保健医療支援」研究代表者）
- ・御代出三津子（兵庫県歯科衛生士会、阪神淡路大震災時に歯科保健活動に従事）
- ・中村ゆみ子（兵庫県歯科衛生士会、阪神淡路大震災を経験）
- ・高橋千鶴（豊岡健康福祉事務所地域保健課、兵庫県内水害時の歯科保健活動に従事）
- ・高藤真理（神戸常盤短期大学部口腔保健学科、兵庫県西播磨・佐用水害時の歯科保健活動に従事）
- ・島袋裕子（品川区荏原保健センター、災害時備蓄の歯科保健物品を検討中）
- ・高澤みどり（千葉県市原市、千葉県市原市での健康教育を担当）
- ・相沢朋代（柏崎市役所福祉保健部元気支援課、新潟県中越沖地震時に柏崎市職員として歯科保健活動に従事）
- ・関口恵理子（新潟県歯科衛生士会、新潟県中越沖地震時に歯科支援活動に従事）
- ・船岡陽子（新潟県歯科衛生士会、新潟県中越沖地震時に歯科支援活動に従事）

・北林典子（新潟県歯科衛生士会、新潟県中越沖地震時に歯科支援活動に従事）

・久保山裕子（福岡県歯科衛生士会、福岡西方沖地震時に歯科支援活動に従事）

歯科医師（順不同）：

・中久木康一（東京医科歯科大学顎顔面外科、研究代表者）

・足立了平（神戸常盤短期大学部口腔保健学科、阪神淡路大震災時西市民病院勤務、GP（文部科学省「学生支援推進プログラム」）「危機対応実践力養成プログラム」

・有泉祐吾（静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科、文部科研「地震災害被災者のQOL向上を目的とする歯科保健医療支援」研究分担者）

2. 平成21年10月14日（水）にシンポジウム“大規模災害時の歯科保健医療に関する教育のあり方”を東京医科歯科大学にて開催し、歯科医療従事者の教育のあり方の方向性を検討した。歯科衛生士の立場からは「歯科衛生士に対する災害時の歯科保健医療教育のあり方～歯科衛生士学生に対する教育～」と題し、藤原愛子先生（静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科、文部科研「地震災害被災者のQOL向上を目的とする歯科保健医療支援」研究代表者）にご高話いただいた。

3. 平成22年1月16日（土）に、新潟県柏崎市・刈羽村にて中越沖地震健康サポート事業視察・報告および“中越沖地震の歯科保健に関わる交流会”に参加し、意見交換を行った。出席者は以下のとおりである。

・中久木 康一（東京医科歯科大学顎顔面外科学分野助教）研究代表者

・小室 貴子（荒川区保健所健康推進課 歯科担当）研究分担者

・田中 彰（日本歯科大学新潟病院 口腔外科）

・勝田 紘子（日本歯科大学新潟病院 口腔外科）

・山川 尚人（柏崎市歯科医師会）

・高橋 堅護（柏崎市歯科医師会）

・犬井 正（柏崎市歯科医師会）

・村山 剛（柏崎市歯科医師会）

・大西 沙智子（刈羽村役場保健課、保健師）

・相沢 朋代（柏崎市役所福祉保健部 元気支援課、歯科衛生士）

・石田 美奈子（新潟県歯科衛生士会）

・関口 恵理子（新潟県歯科衛生士会）

・船岡 陽子（新潟県歯科衛生士会）

4. 平成22年2月28日（日）に、静岡県立大学短期大学部において開催されたシンポジウム“被災地において歯科保健医療を提供するために—歯科衛生士の役割を考える—”（主催：「地震災害被災者のQOL向上を目的とする歯科保健医療支援」科研班、共催：特別非営利法人 静岡県歯科衛生士会、後援：静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科）に参加し、「歯科衛生士会における大規模災害時の歯科保健医療体制の現状」について紹介し、意見交換を行った

（倫理面への配慮）

インタビュー、交流会での情報交換に当たっては、本調査以外の目的に使用しないことを伝え、同意の上で協力を依頼した。

C. 研究結果・考察

1. “災害時の歯科保健にかかわる歯科衛生士の交流会”

阪神淡路大震災、兵庫県佐用町水害、新潟県中越沖地震、福岡西方沖地震での体験、歯科保健活動について情報交換を行った。その活動内容は、うがいや口腔ケアの仕方の掲示、リーフレットの配布、救援物資の分配、口腔ケア、歯科保健支援活動のコーディネート、また、歯科に限局することなく作業班としてボランティアセンターの受付業務や、泥よけ作業もおこなったとのことであった。また、後方支援が入るまでの発災後2～3日分の口腔ケアの備蓄プラン、避難所における歯科健康教育の検討などについても発言があった。

中越沖地震では行政歯科衛生士が現地支援コーディネイターを務め、外部支援コーディネイターとの連携により効果的に歯科支援活動を行うことができ

たとの報告もあり、今後のシステムづくりにおいて有用な一例になると考えられる。

また、歯科衛生士としてどう動くかということの前に、人として何ができるか、同じ場で大変な思いをした人間としてどう声をかけることができるか、という気持ちの重要性も取り上げられた。

2. “大規模災害時の歯科保健医療に関する教育のあり方”

「歯科衛生士に対する災害時の歯科保健医療教育のあり方～歯科衛生士学生に対する教育～」

静岡県立大学短期大学部歯科衛生学科（三年制）では、被災地における支援活動は生活（QOL）の回復を目指していることを理解し、被災者に寄り添うボランティアとして歯科衛生を実践する態度を養うことを目的に三年次前期に「災害時歯科保健」を開講している（15時間1単位の選択科目）。行動目標は①被災地における歯科衛生士の役割を列挙する②被災地における歯科保健医療活動の目的は、QOLの回復にあることを説明する③歯科臨床における災害対策法を具体的に述べる、としている。災害時歯科保健は歯科衛生士教育で学ぶすべての技術の応用であるので、方法論は不要であるとしたとのことであった。今後は、組織の中でどのように動くか考えることができるよう、組織的活動の方法を知ることが念頭に、被災地域歯科医院の歯科衛生士としての行動、歯科ボランティアとしての行動、支援コーディネーターの行動（対策本部・災害ボランティアセンターとの連携）を含めた歯科保健支援のシミュレーションも行っていきたいとのことであった。同じ歯科衛生士でも、現場とコーディネーターの動きは異なること、また他職種・他機関との連携は不可欠であることから、このような全体の支援体制を学ぶことは非常に有用であると考えられた。

3. 中越沖地震健康サポート事業視察・報告および“中越沖地震の歯科保健に関わる交流会”

小規模多機能施設では、歯科衛生士の指示通りの口腔ケアをするようにしたところ、表情が豊かになり、熱発なくなったことで、口腔ケアの大切さを再

認識することとなったという。また、亡くなった後も家族から「入れ歯がない」と言われ、調整してもらったばかりの入れ歯を入れて化粧をしたら、よい口元になり、表情がとてもよくなったことがあり、歯は食べるため以外にも大事だと認識したという。

今現在、事業計画には口腔ケアがすでに入っていて、配膳サービスの食器回収の際に口腔ケアを行うなどしている。また、歯科衛生士だけでなく、職員も共に家族へ働きかけることによって、訪問診療につながられるようになっている。

歯科衛生士からの働きかけにより、職員へ、利用者・家族へとつながり、本人の行動変容にもつながっている、地域での支援体制としての先駆例といえるであろう。

4. “被災地において歯科保健医療を提供するために一歯科衛生士の役割を考える”

「歯科衛生士会における大規模災害時の歯科保健医療体制の現状」

阪神淡路大震災、福岡西方沖地震、中越・中越沖地震の被災地において歯科保健医療を提供した体験および大規模災害時の歯科保健医療に関する研究をもとに、被災地における歯科保健医療のあり方について提言し、被災地における歯科衛生士の役割を考える基盤を参加者と共有することを目的としたシンポジウムに参加し、歯科衛生士会の体制の現状について話し、意見交換を行った。

D. 結論

歯科衛生士が大規模災害時に健康情報の発信や口腔ケアを通して被災者のQOLの回復を支援し、また歯科保健全体のコーディネーターを担うことにより他職種・他機関と連携し、より円滑で充実した支援ができることが示唆された。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1) 小室貴子, 中久木康一, 鶴田潤, 御代出三津子,

杉本久美子，寺岡加代．大規模災害時に関する都道府県歯科衛生士会の体制及び全国歯科衛生士養成校の教育の現状．歯科衛生学会誌，4（1）：163，2009．

2）歯科医師会，歯科衛生士会，歯科技工士会における大規模災害時の歯科保健医療体制、中久木康一，小室貴子，岩嶋秀明，池田正臣，村井真介，鶴田潤，星佳芳，坂本友紀，寺岡加代、第58回日本口腔衛生学会、口腔衛生学会雑誌、59(4)、P430

3）歯科大学・歯学部，歯科衛生士養成校，歯科技工士養成校における大規模災害時の歯科保健医療教育、鶴田潤，中久木康一，小室貴子，池田正臣，岩嶋秀明，村井真介，星佳芳，坂本友紀，寺岡加代、第58回日本口腔衛生学会、口腔衛生学会雑誌、59(4)、P431

G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

(参考資料・文献)

1. 新潟県中越大地震における歯科医療救護活動からみた歯科衛生士の課題．日本歯科衛生学会雑誌 Vol.1, No.2, 2007
2. 被災地で有機的に歯科保健活動を行うために
1. 歯科衛生士，19（11），23－34，1995
3. 被災地で有機的に歯科保健活動を行うために
2. 歯科衛生士，19（11），35－47，1995
4. 災害時の「緊急医療」再考．歯科衛生士，21（2），38－44，1997
5. あの阪神大震災から2年目を迎えて．歯科衛生士，21（1），36－44，1997
6. 神戸発「がんばっています」保健所の歯科衛生士・保健所の歯科衛生士・震災後3ヶ月の記録．デンタルハイジーン，15（11），1003－1015，1995
7. 相沢朋代，田中彰，大塚誠之輔，松崎正樹，岡田広明．中越沖地震歯科医療支援活動における現地支援コーディネーター業務に関する検討．歯科衛生学会誌，4（1）：119，2009．
8. 関口恵理子，船岡陽子，山口敦子，勝田紘子，田中彰，末高武彦，大塚誠之輔，松崎正樹，岡田広明．新潟県中越沖地震における健康サポート事業の取り組み．歯科衛生学会誌，4（1）：120，2009．
9. 船岡陽子，関口恵理子，村山径，勝田紘子，田中彰，末高武彦，大塚誠之輔，松崎正樹，岡田広明．新潟県中越沖地震直後の福祉避難所における要援護者に対する巡回口腔ケア．歯科衛生学会誌，4（1）：121，2009．

参考資料

中越地震および中越沖地震

健康サポート事業 視察報告

厚生労働科学研究事業
大規模災害時における歯科保健医療の健康危機管理体制の構築に関する研究班
中越沖地震健康サポート事業視察（柏崎市・刈羽村）報告

1. 中越地震復興後視察（長岡市）

- 日時：平成22年1月16日（土）10：30～11：30
- 場所：長岡市内（山通コミュニティーセンター・柿小学校・高岡団地・健康センター）
- 出席者：4名
中久木 康一（東京医科歯科大学顎顔面外科学分野 助教）研究代表者
小室 貴子（荒川区保健所健康推進課 歯科担当）研究分担者
船岡 陽子（新潟県歯科衛生士会）
関口 恵理子（新潟県歯科衛生士会）

2. 中越沖地震健康サポート事業視察（柏崎市・刈羽村）

- 日時：平成22年1月16日（土）14：00～17：30
- 場所：刈羽村、柏崎市
- 出席者：7名
中久木 康一（東京医科歯科大学顎顔面外科学分野 助教）研究代表者
小室 貴子（荒川区保健所健康推進課 歯科担当）研究分担者
田中 彰（日本歯科大学新潟病院 口腔外科）
勝田 紘子（日本歯科大学新潟病院 口腔外科）
高橋 堅護（柏崎市歯科医師会）
船岡 陽子（新潟県歯科衛生士会）
関口 恵理子（新潟県歯科衛生士会）

○ 内容：

1) 柏崎市営復興住宅見学

2) 在宅訪問口腔ケア見学（刈羽村入和田）

79歳男性、要介護度5、脳梗塞（胃ろう）、寝たきり度C2、認知度IV

訪問口腔ケアの関わりで、徐々に表情も出てきたとのこと。常に開口状態のため痰の乾燥が強く見られ、保湿剤の活用と吸引ブラシにて家族やサービス時に口腔ケアを取り組んでいただいている成果がでてきており比較的口腔清掃状態はよくなってきたと思われる。酸素マスクを外しての口腔ケアのため酸素飽和度がどのくらいあるのかパルスオキシメーターにて測定していく必要もある。鼻の中の汚れにも注意が必要。（別紙資料症例1）：DH 船岡

3) 小規模多機能施設（ももの木）見学（刈羽村）

歯科衛生士との連携のきっかけは震災からで、県からの連絡だった。それでは自分たちも特別養護老人ホームの流れで小規模多機能施設でも同じような口腔ケア（管理）をしていたが、口腔ケアの重要性を再認識した。経管栄養の人は、ガーゼで日に1回ぬぐいとるくらいだったのが、歯科衛生士の指示通り日に3回の口腔ケアをするようにしたら、表情が豊かになり熱発がなくなった

今は事業計画に口腔ケアが入っている。居宅へ食べ物を届けるサービスを提供するときなどは、食器を回収するときに口腔ケアをするなどしている。家族への働きかけも、歯科衛生士のみではなく職員とともに行うと理解されやすく、訪問診療へつなげられるようになっている。

歯科衛生士からの働きかけにより、職員へと伝わり、利用者・家族へつながり、そして歯科衛生士への依頼とサイクルができています。職員の考え方や技術も統一されてきて、施設や在宅やどこに行っても、介護職員や歯科衛生士から同じこと（食べたら歯を磨くなど）を言われるようになった、ということにより、本人の行動変容も起こっている。

4) 在宅訪問口腔ケア見学（柏崎市東本町）

66歳男性、要介護度5、脳梗塞（胃ろう）、寝たきり度C2、認知度Ⅲa

訪問口腔ケアが入り、奥様もケアをするようになってから、唾液ももれなくなり、熱発は全くなかったとのこと。吸引つきブラシを知り、口腔ケアが容易になった。徐々に回復してきており、嚥下機能検査なども今後予定したいとのことだったが、現状では不顕性誤嚥の可能性あり、臨床的評価のみでなく、内視鏡もしくはVFによる画像検査による評価が必要であろうと考えられ、担当医との連絡・調整が必要と思われた。（別紙資料症例2）：DH 関口

5) 復興後の柏崎市内視察・柏崎市営復興住宅見学

3. 中越沖地震健康サポート事業報告会・意見交換会（柏崎市・刈羽村）

○ 日時：平成22年1月16日（土）17：45～

○ 場所：柏崎市歯科医師会館

○ 出席者：12名（順不同）

中久木 康一（東京医科歯科大学顎顔面外科学分野 助教）研究代表者

小室 貴子（荒川区保健所健康推進課 歯科担当）研究分担者

田中 彰（日本歯科大学新潟病院 口腔外科）

勝田 紘子（日本歯科大学新潟病院 口腔外科）

山川 尚人（柏崎市歯科医師会）

高橋 堅護（柏崎市歯科医師会）

高野 清（柏崎市歯科医師会）

大西 沙智子（刈羽村役場保健課、保健師）

相沢 朋代（柏崎市役所福祉保健部 元気支援課、歯科衛生士）

石田 美奈子（新潟県歯科衛生士会）

関口 恵理子（新潟県歯科衛生士会）

船岡 陽子（新潟県歯科衛生士会）

健康サポート事業から継続 している事例

～刈羽村・柏崎市の取り組み～

歯科衛生士
船岡 陽子
関口 恵理子

症例 1

- ・対象 I. S様：79歳 男性(要介護5)
- ・原因疾患 脳梗塞(平成19年12月発症:胃ろう)
- ・日常生活自立度
寝たきり度：C2(寝たきり、自立寝返り不可)
認知度：IV(常に目を離すことができない状態)
- ・口腔内状況
残存歯：状態は良好・歯肉出血良好
口臭：多少あり
痰附着：口蓋・舌・歯牙周辺に多量
口腔清掃状態：不良(痰:多量、歯肉状態良好)
：口呼吸のため口腔内乾燥状態

かかわり始めた経緯

- ★ H21.9.2 健康サポート事業で訪問
(刈羽村包括CM同行)
- 9/12,9/22,10/1と4回訪問して家族に口腔ケアの必要性を伝える
- 歯科訪問健診から居宅療養管理指導へ
- サービス利用時口腔ケアの様子を見てもらうサポート事業を使い、指導者研修会実施
- 定期的な口腔ケア実施中(3~4回/月)

ケアを始めてからの変化

- ① 口腔内環境の変化
 - ・痰の乾燥の汚れが口蓋、舌表面にこびりついている様子がきれいになる
 - ・保湿剤の使用方法を知り、うまく活用できるようになった
 - ・口腔ケア実施による刺激と口腔内がきれいになること
→顔の表情に変化がみられる(ご家族より)
 - ・痰のあがり、吸引回数が少し減少済み?
- 残念ながらまだ発熱回数が頻回のため今後の改善を期待したい

- ② 家族、サービス職員の口腔ケアに対しての意識、関心が高まってきている
 - ・口腔ケアの様子を観察することで方法を学ぶ
 - ・サービス事業者に対して指導者研修会の実施
(サポート事業の活用)
 - ・ディサービス・ショートステイ職員への指導
- ③ 介護時間の短縮にもつながってきている
 - ・歯ブラシ等のケアグッズの紹介→ケア時間短縮につながる

症例 2

- ・対象 M. K様：66歳 男性(要介護5)
- ・原因疾患 脳梗塞(平成13年5月発症:胃ろう)
- ・日常生活自立度
寝たきり度：C2(寝たきり、自力寝返り不可)
認知度：Ⅲa(日常的に支障を来す症状あり)
- ・口腔内状況
残存歯：多数(治療歴有、状態不良)
口臭：強
歯肉：発赤・腫脹・出血
流涎：多量
口腔清掃状態：不良(歯垢・舌苔:多量)

かかわり始めた経緯

★H20, 10月初旬 CM → サポート事業(市)

→ 10/8在宅歯科衛生士(CMと日程調整)

→ 10/15同行訪問(CM, DH)

→ 10/22同行訪問(DR, DH)健診～
居宅療養管理指導

→ 現在: 定期的な口腔ケア実施

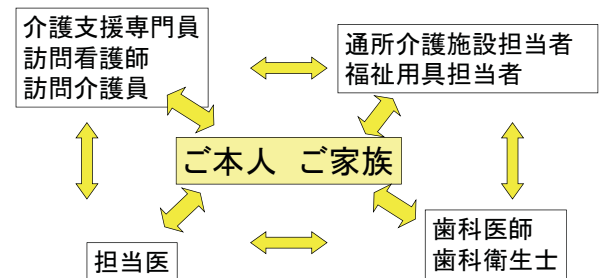
ケアを始めてからの変化

- ① 歯肉の発赤が改善してきている
- ② 舌苔の減少
- ③ 口中のネバネバが減り、吸引しやすい
- ④ 口の緊張がゆるみ、ケアがしやすくなった
- ⑤ 介護者が口腔内をよく見るようになった
- ⑥ 口臭の減少
- ⑦ 表情や反応が良くなった
- ⑧ 介護者がケアの方法を知る事により、
継続する自信が持てた

M. K様のアセスメント結果

質問事項	評価項目	H 20.11.6	H 21.2.3	H 21.5.1	H 21.8.1
歯の汚れ	1. なし, 少量 2. 中等度 3. 多量	3	2	1	1
舌苔	1. なし 2. 中等度 3. 多量	3	2	1	1
歯肉炎	1. なし 2. あり	2	2	2	1
痰の付着	1. なし 2. あり	2	2	1	1
口臭	1. ない 2. 弱い 3. 強い	3	2	1	1
ここ1ヶ月の発熱回数	()回/月	1	0	0	0
むせ	1. ない 2. 時々 3. あり	3	3	2	2
流涎	1. なし 2. あり	2	2	2	2
コメント		初診時、口唇の緊張強い。唾液の分泌多量。吸引ブラシ使用	痰の上がりがよく吸引がし易くなってきた	口腔ケアの手順を提出する。(SS, DS)	M・ババカラ(体調の良い時)

サービス担当者会議



多職種間の情報の共有と連携

サポート事業より広がった事例

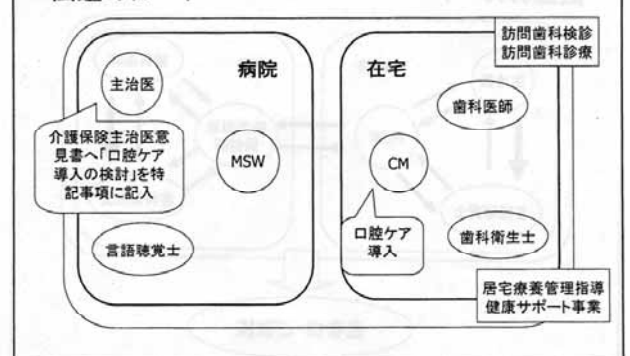
1、H21, 1難病患者在宅療養支援計画策定事業難病ケース連絡会にて検討事例 新潟病院に於いて

K. I 様の事例 刈羽村在住
S8. 8 74歳 男性 介護度3
パーキンソン病

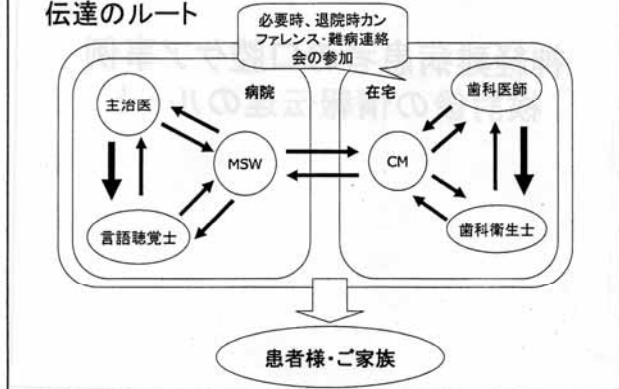
参集者: 病院神経内科医師、病院スタッフ、保健所保健師
ケアマネージャー、行政関係者、在宅歯科衛生士等

導入経緯: 病院側がNSWを立ち上げ、栄養・嚥下を含めた活動を実施し、その中にも口腔ケアを取り組みたい意向があり、今回CMを通してDHとDR主治医の連携体制ができたこと、収穫多い会議となった。

口腔ケアを行っていくチームのイメージと情報伝達のルート



口腔ケアを行っていくチームのイメージと情報伝達のルート



2、栄養サポート事業につながった事例

H21、7、9 柏崎地域振興局にて「口腔ケアと栄養指導の連携に関する検討会」を実施する

4事例(柏崎市 2事例、刈羽村 2事例)訪問実施

同行訪問者:在宅栄養士・在宅歯科衛生士・ケアマネ・行政関係者

まとめ:食べることを通して栄養と口腔(歯)の関係職種が共通認識で関わるとよりよい効果が期待できるのではないか、継続的にかかわっていく仕組みが作れたらよい。

健康サポート事業

中越地震

平成 16 年度 国 地域保健特別推進事業

- 1 栄養・食生活支援
- 2 歯科保健対策
避難所における巡回歯科相談・指導・口腔ケア
介護施設等の職員に対する口腔ケア研修会
仮設住宅における口腔ケア指導

平成 17 年度から (財)新潟県中越大震災復興基金事業

- 1 基本健康診査
- 2 看護職による健康相談・訪問指導
- 3 栄養士等による食生活支援
- 4 歯科医師等による口腔ケア指導
誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア指導者研修
仮設住宅入居者等に対する口腔ケア指導
- 5 健康管理システムによる健康管理

中越沖地震

平成 19 年 10 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日

地域健康危機管理対策特別事業 (国 10/10)

- 1 健康診査
- 2 看護職による健康相談・訪問指導
- 3 栄養士等による食生活支援
- 4 歯科医師等による口腔ケア指導

☆ 訪問口腔ケア指導事業

中越沖地震の発生に伴う被災生活が長期化している要援護者などの被災者に対し、口腔衛生状態の改善及び口腔機能の向上を目的として、歯科衛生士が在宅被災者宅を訪問し、口腔ケアを行う。

- ①要援護者に対する訪問口腔ケア指導.
- ②保護者、介護者等に対する健康教育等.
- ③訪問指導の結果、必要な場合は歯科医療機関との受診調整

- 5 エコノミークラス症候群予防検診

平成 20 年 4 月 1 日～継続実施中

財団法人新潟県中越沖地震復興基金 被災者生活支援対策事業 (健康サポート) 補助金

参考資料

“被災地において歯科保健医療を提供するために－歯科衛生士の役割を考える－”

「歯科衛生士会における大規模災害時の歯科保健医療体制の現状」

配布資料

歯科衛生士会における 大規模災害時の 歯科保健医療体制の現状

荒川区保健所健康推進課 小室貴子

厚労科研「大規模災害時における歯科保健医療の
健康危機管理体制の構築に関する研究」
(代表:中久木康一)
研究分担者

今日の内容

- 各都道府県歯科衛生士会の地域歯科保健活動の状況
- 過去の災害時における歯科衛生士の動き
- 歯科衛生士会における大規模災害時の歯科保健医療体制の現状～アンケートより

都道府県歯科衛生士会の活動

- 各都道府県歯科衛生士会の地域歯科保健活動の状況

【平成20年度】

119, 687人の歯科衛生士が
約145万人の地域住民に対して
生涯を通じた地域歯科保健活動事業に従事





参照:平成20年度地域歯科保健活動実施状況調査報告
(日衛だよりNo.194, 2010)

地域歯科保健活動の事業別内容

- 母子歯科保健に関する事業
- 学校歯科保健に関する事業
- 事業所歯科保健に関する事業
- 成人・老人歯科保健に関する事業
- 障害者(児)歯科保健に関する事業
- 休日救急歯科診療に関する事業
- 歯の衛生週間に関する事業
- 介護保険に関する事業
- 特定健診・特定保健指導に関する事業
- 各種委員会への構成員としての参画
- その他の事業



過去の災害時における 歯科衛生士の動き

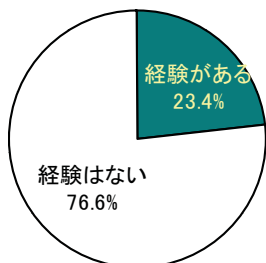
- **新潟県中越沖地震**
現地支援コーディネーターとして情報収集、活動調整、物資の調整・配布・管理・需要調査、記録管理、被災者への広報活動・歯科的問題の窓口、中長期的歯科保健医療活動への協力
- **阪神・淡路大震災**
歯ブラシ、歯磨剤、義歯安定剤を避難所へ
歯科衛生士会会員の安否確認 
- **福岡西方沖地震**
避難所健康相談コーナー
健口体操の実施 

アンケート概要

- 時期:平成20年9月～21年1月
- 方法:自記式アンケート、郵送法
- 回収率:100%(47会)
- 質問項目:
 - 1 歯科保健活動の経験と今後
 - 2 大規模災害時の歯科保健医療体制
 - 3 関係機関との連携体制の整備状況
 - 4 研修・教育について

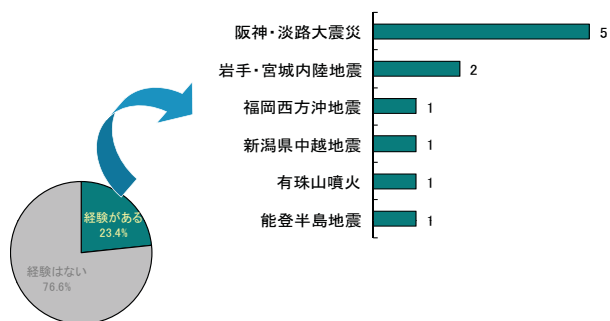
1 歯科保健活動の経験と今後

Q. 大規模災害時の歯科保健活動・協力の経験

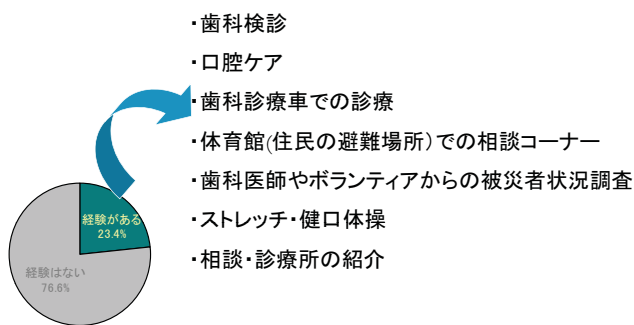


11会(23.4%)は大規模災害時に歯科保健活動・協力の経験がある

Q. 大規模災害時の歯科保健活動 災害別

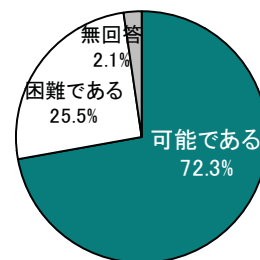


Q. 大規模災害時の歯科保健活動 災害別



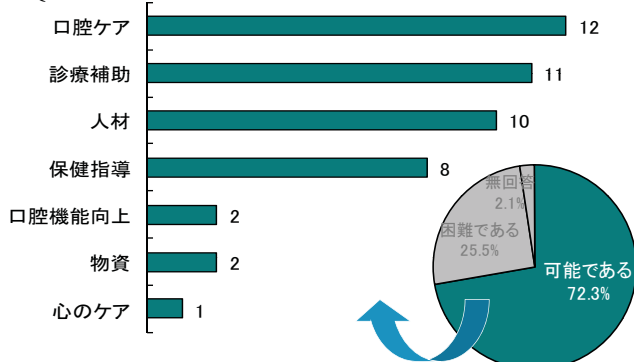
1 歯科保健活動の経験と今後

Q. 大規模災害時の歯科保健活動・協力の可否



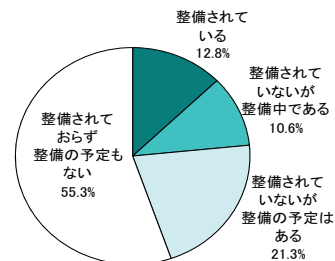
34会(72.3%)は大規模災害時に歯科保健活動・協力が可能である

Q. 大規模災害時に可能な歯科保健活動 活動内容別



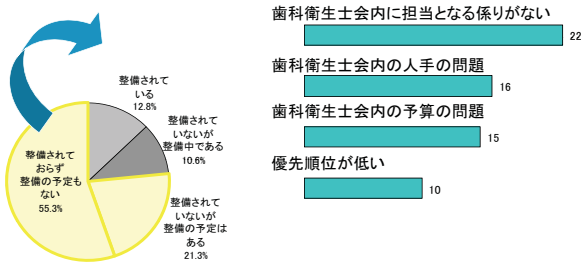
2 大規模災害時の歯科保健医療体制

■ 大規模災害時救護体制の整備状況

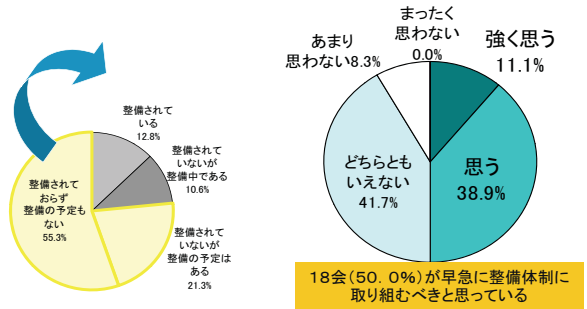


36会(76.6%)で歯科保健医療に関する救護体制が整備されていない

■ 整備されていない主な理由



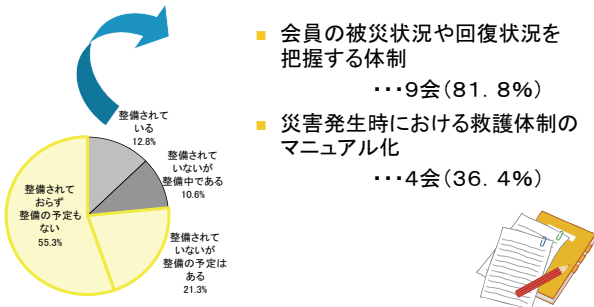
■ 体制整備に取り組むべきか？



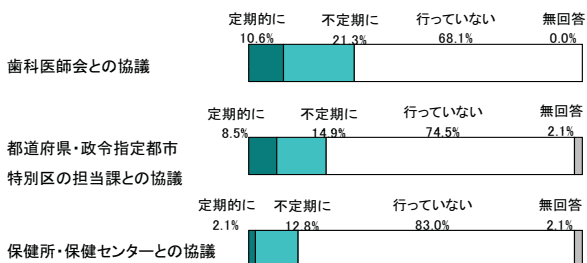
石川県歯科衛生士会マニュアル

【すでに取り組まれている内容】

- 会員の被災状況や回復状況を把握する体制
 - ・・・9会 (81.8%)
- 災害発生時における救護体制のマニュアル化
 - ・・・4会 (36.4%)



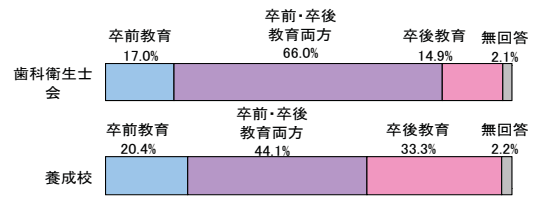
3 関係機関との連携体制の整備状況



歯科医師会・行政機関など他機関との定期的な協議は6割以上なされていない

4 研修・教育について

Q. 大規模災害時の歯科衛生士の役割に関する研修・教育の適切な時期



平成20年9月実施 全国156歯科衛生士養成校対象アンケート (回収率: 93校 (59.6%))

すべての歯科衛生士会および歯科衛生士養成校が大規模災害時に関する研修・教育を行う必要があると考えている

- 大規模災害時の歯科保健医療救護体制のある会は少ないが、それを必要と考えている会は多い。



災害による避難生活の長期化

↓
偏った食生活・ストレス・口腔清掃状態の悪化

↓
う蝕、歯周病、口内炎、誤嚥性肺炎の増加



- 過去の経験・既存のマニュアルを今後の参考にして普及していく

